

108

contents

コレクション展
平成20年度特別展・コレクション展予告
年間スケジュール

天花
TENGE
天花



松田正平(1913-2004)「裸婦」 1977年 山口県立美術館蔵

コレクション展

松田正平

4/8^{tue}～6/29^{sun}

表紙作品解説

松田正平(1913-2004)「裸婦」1977年
油彩・カンヴァス 65.5×91.0cm
山口県立美術館蔵

画面からはみでるように、のびのびと寝そべる裸の女性。塗り重ねられた青色を背景に、彼女の白い肌がうきあがります。よく見ると、この肌色はとても複雑で、白やピンク、紫が重なった向こうに、背景の青が透けるようです。透明感のある独特の絵肌づくりを得意とした、松田正平らしい表現といえるでしょう。

ところで、絵の中で、女性より手前に手が見えますね。これは、誰の手なのでしょう？

女性の手が、大きくゆがんで描かれているのでしょうか。しかし、彼女の右手は頭の下、左手はおしりの方に回されています。さらに、手前に描かれた両手は、左側が左手、右側が右手で、女性の手の向きとは合いません。また、その手は彼女の肌とは違って黄味がかった色をしています。つまり、手の主は、どうやら彼女とは別人らしい。手の向きからすると、両手を地に置いて、おそらくは腹ばいで、私たちと同じ方向から彼女を見つめている…。

ここまで考えると、その人物とはまさに、今彼女を見つめる私たちだということ、または私たちはこの人物の視点を借りて彼女を見ているのだということに気づかされます。観られる方はもちろん、観る方も寝転がっていたというわけです。

「寝ながら」観ている。その視点に入り込んだ瞬間、彼女の体は私たちより近くなり、私たちは彼女ときわめて親密な絵画空間を共有することになるでしょう。そんな少し不思議な感覚を、ぜひ味わってみてください。

(当館学芸員 剣持あすさ)

展

と新
成がしり
立ア
館コキユ
00

野愛)

紙帖
世紀)水鏡
330)

リン

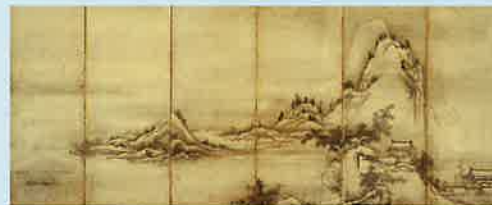
文
史以
ます
蒙
北部
たの
仏
をく
いを
仏師
こ
との
仏
存亡
仏像

小林和作室

「雲谷派①」4/8～5/18

「森寛斎」5/20～6/29

「雲谷派①」では、毛利藩御用絵師として雪舟流の正統を受け継いだ雲谷派の初代である雲谷等顔(1547-1618)の作品をご紹介します。「森寛斎」では、萩の出身で、幕末から明治時代前期の京都画壇を代表する画家であった森寛斎(1814-1894)の作品をご紹介します。



雲谷等顔「山水図屏風」(右隻)

森寛斎「芥川図」
山口県立美術館蔵

香月泰男室

「松田正平」4/8～6/29

この展示では、透明感のあるマチエール(絵肌)の美しさと、ユーモラスでありながら詩情をも合わせ持つ独特の表現によって、揺るぎない評価を与えられている宇部の出身の洋画家・松田正平(1913-2004)の作品をご紹介します。

松田正平「オヒョウ(大きな魚)」1984年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「植木茂」4/8～6/29

この展示では、木を素材として抽象的な形態を追求し続け、日本の抽象彫刻のパイオニアとして活躍した彫刻家・植木茂(1913-1984)の作品をご紹介します。植木の作品は、モダンな形の中に古代的な感性をも感じさせ、今なお新鮮さを失っていません。

植木茂「仏頭」1947年
山口県立美術館蔵



美術館ボランティアによる「ギャラリー・トーク」

「こどものためのギャラリー・トーク みんなでみよう」

特別展「いわさきちひろ展」をみていきます。

日 時：会期中の土曜日 11:00

集合場所：企画展示室入口

参加費：無料(大人は展覧会観覧料が必要です)

いわさきちひろ展 ようこそ!ちひろの家へ

4/17(木)~5/25(日)

1952年、東京の練馬、上井草に建てられた小さな家。この家の一角に設けられた小さなアトリエで、ちひろは22年間にわたり絵を描き続けました。それらの作品からは、生活者としてのちひろのまなざしや、母親としてのまなざしが感じられます。今回の展覧会では代表作123点を紹介し、ちひろのこの小さなアトリエを復元いたします。

(当館学芸員 斎藤郁夫)

休館日：4/21、5/7、5/12、5/19 ゴールデンウィークは開館

一般：1000(800)円、学生：800(600)円

()内は前売りおよび20名以上の団体料金。



「身体測定」1966年



「ぶどうを持つ少女」1973年



「母の日」1972年

「立てひざの少年」1970年



「ちひろのアトリエ」

特別講演会

4/17(木) 14:00~

講師：松本猛(安曇野ちひろ美術館長)

会場：山口県立美術館講座室

定員：70名(当日9:00より展覧会場受付で整理券を配布します)

ギャラリートーク

ちひろ美術館学芸員

4/18(金) 10:00~、14:00~、4/19(土) 10:00~

山口県立美術館学芸員

4/28(月)、5/17(土)、5/24(土) いずれも10:00~

山口県立美術館ボランティア(子ども向け)

毎週土曜日 11:00~

絵本の読み聞かせ

子どもと本ジョイントネット21・山口

毎週土曜日 14:00~

*絵本閲覧コーナーを会場内に設置します。

ちびっこルーム(無料託児サービス)

会期中、毎週木曜日 10:00~13:00

定員制・要予約(ご利用週の月曜日までに電話、またはE-mailで、下記までお申し込みください。)

山口県立美術館 tel.: 083-925-7788 E-mail: a19304@pref.yamaguchi.lg.jp

美がむすぶ絆

—ベルリン国立アジア美術館所蔵日本美術名品展

7/30(水)~9/21(日)

東西統一から20年を迎えようとしているドイツの首都・ベルリンでは、現在、再開発と新しい都市イメージの創出とともに、「博物館島」を中心に展開する国立博物館群の再編成が進められています。

そのなかでも、世界的にも質の高い東洋美術コレクションをもつことで知られる「ベルリン東洋美術館」は、2006年に100周年を迎え、インド美術館と統合して「ベルリン国立アジア美術館」として新しいスタートを切りました。この展覧会はその記念をふまえ、同館コレクションを中心に、日本の平安時代から昭和にいたる絵画、版画107点を紹介します。

お雇い外国人教師として明治日本にやってきたギールク、東洋美術学者のグローセ、キュンメルなど、それぞれがそれぞれの立場で日本美術に興味を持ち、愛し、蒐集してきた100年以上にわたる日独文化交流の一端を、日本絵画の優品を通して振り返ります。

(当館学芸員 杉野愛)



土佐五阿「天孫草紙絵巻」室町時代(15世紀)



「地藏菩薩像」鎌倉時代

第1章
斬りと娘籠
—伝説と水書刺—

第2章
百花散乱
—近世絵画の雄力—



本阿弥光悦・飯屋宗達「四季草花下絵和歌色紙帖」江戸時代(17世紀)



葛飾北斎「鶯 垂桜」江戸時代 天保5年(1834)現

第3章
江戸の粋と美
—浮世絵—



名取春仙「オカルヘルム・ツルツル肖像」昭和7年(1932)



瀧木真方「水鏡」昭和5年(1930)

第4章
新しい朝
—近代日本画とベルリン—

◆会期中、展示替があります。

運慶流 11/11(火)~12/21(日)

文永11年(1274)と弘安4年(1284)の二度にわたる蒙古襲来(元寇)は、日本の有史以来未曾有の国家危機でした。この事態を契機に、時代は大きな転換を迎えることになります。

蒙古襲来は、仏教美術の世界にも大きな転機をもたらしました。東アジアの表玄関である北部九州では、いち早く異国降伏を祈願する仏像が切望され、仏教美術の新風が吹きこまれたのです。

仏像を制作したのは、日本美術史を代表する仏師として有名な、運慶(?~1223)の流れをくむ「運慶流」の仏師たちでした。かつて運慶が作り出した力強い迫力のある様式が、災いを退け平和をもたらす仏の姿として求められたのでしょう。北部九州を中心に、運慶流の仏師たちが腕を競い合うように活躍し、すぐれた仏像がのこされています。

この展覧会では、蒙古襲来という日本を揺るがした歴史的な一大事件と、運慶流の仏師たちとの関係を明らかにすることで、西国の人々が求めた祈りの美を明らかにしていきます。

仏像の魅力は、その時代に生きた人々の祈りの美が込められていることにあります。国家存亡の危機の中で、人々が仏像にこめた祈りとは何か。鎌倉時代から南北朝時代までの中世仏像の魅力満載の展覧会です。(当館学芸員 岩井共二)



木造持国天(右)・多聞天像(左) 湛康作 永仁2年(1294)佐賀・円通寺

雪舟 ~大内氏が育てた画家~

7/1(火)~9/21(日)

室町時代、大内氏のもとに繁栄を誇った山口を活躍の場とした「画聖」雪舟。この展示では、「倣高克恭山水図巻」・「牧牛図(牧童)」・「牧牛図(渡河)」の三点の重要文化財を含む当館所蔵の雪舟画を中心に、「拙宗」と名乗っていた若い頃の作品や、現存する作例の少ない人物画である「束帯天神図」などをご覧にいたします。

*会期中展示替がございませう。

(当館学芸員 荏開津通彦)



雪舟等場「牧牛図(渡河)」 山口県立美術館蔵

香月泰男 <シベリア・シリーズ>

7/1(火)~9/21(日)

全57点からなるシベリア・シリーズは、自らの戦争とシベリア抑留の体験を描いた香月泰男(1911-1974)のライフワークですが、作品の中には制作から60年以上を経過したものもあり、保存状態の悪化が懸念されていました。県立美術館では現在、このシベリア・シリーズの修復を行っており、このたび修復の終わった作品をご覧にいたします。(当館学芸員 荏開津通彦)



香月泰男「私の」地球」1968年 山口県立美術館蔵

2008-2009

schedule

山口県立美術館 平成20年度年間スケジュール

特別展

コレクション展

4	4/17~5/25 いわさきちひろ展 ようこそ!ちひろの家へ	4/8	植木茂	松田正平	雲谷派①		
5	5/30~6/8 第31回伝統工芸新作展				5/18 5/20		
6	6/21~7/13 殿敷侃展 —コレクション展特別企画	6/29			森寛斎	6/3	
7	7/30~9/21 美がむすぶ絆 —ベルリン国立アジア美術館所蔵日本美術名品展	7/1				玉村方久斗	6/21 殿敷侃
8	10/9~10/26 山口県総合芸術文化祭 第62回山口県美術展覧会	9/21	十二代 三輪休譽	香月泰男 (シベリア・ シリーズ)	雪舟 ~大内氏が 育てた画家~	7/13	
9	11/11~12/21 運慶流	9/23			松林桂月		
10					10/26 10/28		
11			現代の陶芸	ヌード	雲谷派②		
12					11/24 11/26		
1		12/21			雲谷派③		
2	2/4~2/8 山口県立大学卒業制作展 2/12~2/15 山口芸術短期大学卒業制作展 2/19~2/22 山口大学卒業制作展	12/22~1/5	臨時休館				
3		1/6	金工と赤間硯	宮崎進	小林和作の コレクション	動物いろいろ	
					2/22 2/24	3/1 3/3	
					雲谷派④	戦後日本写真入門	
		4/5					

Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
年末年始(12月28日~1月3日)
展覧会撤去にともなう臨時休館(12/22~1/5)

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金

コレクション展:一般190(160)円 学生120(100)円
()内は20名以上の団体料金

特別展:別途に定めた料金

コレクション展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

山口県立美術館
YAMAGUCHI PREFECTURAL
ART MUSEUM

〒753-0089

山口市亀山町3-1

TEL:083-925-7788

FAX:083-925-7790

<http://www.art-museum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

